

令和元年 7 月 20 日

7 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では梅雨時期のため林道状態が悪く、伐採、搬出しづらく、場所によっては生産力が落ちている。動く製品が決まっているためか、スギ柱材の荷動きは良いが、スギ小径木・中目材、ヒノキは全般的に動きが鈍い。スギ 4m、3.65m の 34cm 上(並材)の元落率が多い。出材増と虫害時期が重なったこと、また大型製材工場に手持ち在庫があることで買い気も弱く、原木価格は弱気配で推移している。

群馬県では原木の出材は順調、集荷も容易。原木価格は下落傾向にある。虫害材が散見される。原木在庫は十分な状況で、システム契約以外の入札は手控えている。例年 7 月の受注は少ないが、今年も同様である。プレカット工場への出荷も陰りが見え始めた。製品在庫は羽柄材が全体的に品薄だが、バタ角や栈木等の土木用材は少し荷余り傾向。構造材、羽柄材ともに在庫が増え始めている。製材品価格が少し下落し始めた。

2. 米材

米加産地では山火事警戒時期に入ったが、気温は低く、湿度も下がらず平穏な状況。港頭在庫は潤沢な水準だが、今後季節的な減産時期になるので、港頭在庫も減少が予想される。ウェアハウザー社の 7 月積み対日価格(推定)は IS 級\$830、前月比\$20 ダウンの決着で 3 ヶ月連続の値下がりとなった。産地側に下げ要因はないが、前月同様、日本国内の米マツ平角の競合品である欧州 RW 集成平角の先安感を考慮。米国製材品市況は 6 月上旬に底打ちし、その後 4 週の続伸。カナダ BC 州内陸工場の相次ぐ稼働停止、閉鎖の発表による供給不足が反転の主な要因。ランダムレングス紙発表の 15 種平均価格(6/28)は\$354 で 6 月頭に比べ 11.0%のアップ。カナダ大手製材メーカーの伐採、製材がストライキにより止まっており、7 月以降の日本向け出荷に影響がある。

5 月の原木入荷量は 213 千 m^3 、1~5 月累計で 1,091 千 m^3 (前年同期比 4.2%減)。出荷量は 196 千 m^3 、1~5 月累計で 1,057 千 m^3 (同 5.2%減)。入荷に見合った出荷となり、東亜林業の製材撤退の影響が数字で見えてきている。在庫は 200 千 m^3 に増加したが、在庫率は 0.98 ヶ月と依然 1 ヶ月を下回った状態。国内製材メーカーの稼働は順調。6 月の東京木材埠頭の入荷は 21 千 m^3 (前月比 8.7%増)、出荷は 23 千 m^3 (4.9%増)、在庫は 49 千 m^3 (同 3.9%減)。先行き米

材製材品の入荷は減少し、出荷は好調を維持しているため、在庫の減少が見込まれる。

3. 南洋材

サバ州では昨年末に原木輸出再開の噂が出ていたが、ここにきて静かになった。サラワク州では今年中に輸出枠を20%から10%に削減する政府のプランがあるが、7月に入っても現状の20%を維持している。中国向けは相変わらず弱いが、ベトナム・韓国・日本向けは比較的安定。PNG、ソロモンでは中国向け市況が低迷しているため、休業するサプライヤーも出始めている。日本向けはPNGがマレーシアからの輸出減を補っている。ソロモンから日本への輸出は1年以上止まっている。7月予想の原木入荷15千 m^3 、出荷14千 m^3 、在庫10千 m^3 、製材品入荷は30千 m^3 。フリー板は市況低迷により契約数量が減り、入荷は減少している。

4. 北洋材

シベリア主要シッパーのアカマツ原木減、品質低下に変化はない。アカマツ野縁の上級グレードの対日供給量は依然低水準。対日向けカラマツ原木と単板も減少。アカマツ現地挽き完成品の産地価格はジリ高。流通在庫は皆無で国内価格も毎月ジリ高で推移。WWやエゾ等に代替の動きがある。現地挽き原板は生産が回復せず、契約消化が遅れている。シッパーは引き続き強気姿勢。国内完成品は各メーカーとも原板入荷が遅れている。さらに値上げの可能性が高い。アカマツ野縁の上級グレード不足で低級品や栈木にも引き合いが増えている。7月予想の原木入出荷7千 m^3 、在庫は20千 m^3 。製品入出荷(東京+川崎)は17千 m^3 、在庫35千 m^3 。

5. 合板

国産材原木は東北産カラマツが高値張り付き。ロシア材は出材シーズンだが、船積みが遅れている。米材の出材は順調だが、少し弱含み。南洋材は出材に大きな問題はないが、価格は低位なまま。

5月の国内合板生産量26.5万 m^3 のうち針葉樹合板は25.5万 m^3 となった。出荷量は26.4万 m^3 で在庫量は13.3万 m^3 となり、3月以降減少している。在庫量のうち構造用合板は10.3万 m^3 。針葉樹合板は特にプレカット向けの荷動きが活発となり、メーカー在庫が減っている。価格は値戻し傾向が強くなっている。

5月合板輸入量は近年にはない18.7万 m^3 で、20万 m^3 を大きく下回った。中国からは平均的な輸入であったが、インドネシア・マレーシアは合わせて約

4. 8万m³の減少となった。産地インドネシアでは原木価格が低位で推移しているが、原木入荷は安定。マレーシアは出材に大きな問題はないが、原木価格が低迷しているため出材意欲が低下している。輸入合板は針葉樹合板ほど荷動きがなく、停滞感が続いている。価格面でもコストが合わず、厳しい状況に変わりはない。先行き、針葉樹合板は在庫が減っているため、品目によっては納期が掛かるだろう。メーカーが値上げを唱え始めたことで、徐々に値戻しが進んでいくものと見られる。

6. 構造用集成材

7月のラミナ入荷は順調。国内集成材メーカー各社はラミナ契約を少な目に抑え、在庫を調整している。RW 平角国内品は 59,000 円/m³、WW 管柱は 1,890 円～1,900 円/本。極端な値下がりはないが、スポット的に安値が流通している。輸入集成材の価格は下落傾向。第3・四半期の契約交渉はRW 平角、WW 管柱は前回比横ばいで決着。7月からは下落した集成材が入荷してくる。国内集成材メーカーの受注は増税駆け込みの影響で良いが、8月盆明けは落ち込むと予想される。スギ集成柱は不足感があり、値上げの話も聞こえる。

7. 木材チップ

製紙関係が針葉樹系抑制のため、針葉樹原木がバイオマス発電に流れている。解体材は定期修理、トラブル等で使用量が大幅に減少し、余剰感がある。行き場のない材が溢れており、解体、建築工事そのものにも影響が出始めている。製紙用チップは6～7月の定期修理等の影響で消費量が大幅に減少し、過剰在庫の状況。燃料用チップは製紙・バイオマス発電とも受入量を大幅に制限しており、消費量は大幅に減少。土場を確保し受入に努めているが、受入制限や受入止めの工場も多くある。

8. 市売問屋

荷動きが悪いせいか、製品市場への引き取りも遅れがちである。見積もりも少なくなっている。国産材、外材の構造材ともに荷動きが悪い。戸建て住宅では集成材に移行している。造作材も大工・工務店からの注文が無いのか、買い気が見られず、様子見の状態が長く続いている。

9. 小売

荷動き感は乏しいが、全体を見ると悪い状況ではない。スギ、ヒノキとも需給バランスが取れており、価格は保合い。米マツは4月の値下げ以降据え置き。米ツガ材は45×90は依然少なく、90×90も入荷不足だが、価格は下げ止まり感がある。ロシア材は強含みで、特定メーカー品や上級材は品不足で値上げが通っている。3m材も少なく、手当に苦戦。針葉樹合板のメーカー在庫は多い水準ではないが、荷動きに精彩を欠く。国産、輸入合板ともに物流問題が深刻となっており、コスト高により更なる値上げが迫られている。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和元年7月20日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	↘	↘	↘
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	↗	↗	↗

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	↘
			スギ中丸太(3.65m)2等	↘
			ヒノキ柱材(3m)2等	→
			ヒノキ中丸太(4m)2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↘
			米マツ桁角(GR) Std&Btr S4S 4・1/8” 13’	↘
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	↘			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割(サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ(KD)30×40上級	→
		アカマツ(KD)16×40上級	→	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↘
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↘
			型枠 12.0mm厚 3×6	↘
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗